



会員数 30人

北九州プロバスケットボールクラブ月報

つながり

No. 197

令和4年11月号

2022. 11. 15

一度は途絶えた綿織物「小倉織」

一般社団法人豊前小倉織研究会代表 大和 恵子

小倉の織物には献上品となる「小倉縮」と木綿の「小倉織」があったそうです。[小倉織]と言えはくっきりとした縞柄で、他の物より縦糸が密であるため強く、丈夫な袴や帯でした。特に袴は「武士の袴は小倉に限る、災難除けの袴」と言われていました。今は復元されたとは聞いていますが、なかなか我々の身近にならないのは、長い間歴史がわからなかったことに起因しているらしく、卓話講師の大和恵子さんにひも解いて頂きました。



慶長10年に徳川家康が鷹狩で「小倉織の袴羽織」を着たとの記述に始まり若松から行橋まで綿を作り、藩士の手によって発見された袴生地が「小倉織物」の基になり、全国に広がった結果、他の地方の木綿と区別され「小倉木綿」と呼ばれたそうです。しかし、幕末に小倉城の炎上とともに滅び、明治時代に「機械織り」になるものの、洋装が追い打ちをかけ、日清戦争により二度目の衰退にあいます。昭和・平成に織物作家が復元し、現在は協同組合も出来たと言う。



“綿繰り機”で綿の種を取り、弓で叩いて“ほぐし”、棒に綿を撒いて糸を“撚る”。その糸を二本撚り合わせてから“織る”。なんと手のかかる事でしょう。数人の会員が“糸撚り”を体験していましたが、次は“織り”を経験したいものです。

紐ひとつをとっても、武家は武具等を結ぶために伸びない[平たい織りの紐]を好み、貴族は引っ張りに強い[丸紐・組紐]が好まれたと言う。武家に好まれた[小倉織]は現在も手作りなので量は少ない。子どもたちにキーストラップ作りを体験させたり、海外にもシェアを広げる努力をしている。時間的に前後するが、小倉織とコラボしたスニーカーの話題が放映された。現代によみがえった[小倉織]が誇らしく思った瞬間であった。(植田)

10月例会報告

今月から司会は例会委員会の中山会員が担当、幹事長時代の流暢な話しぶりが会場に戻った。中山会員が開会の辞、引き続きストレッチ体操の指導を担当して、お誕生会は吉田信雄会員、住吉育代会員、洞ミヨ子会員が前列に並び、それぞれ謝辞を述べた。

食事のあとは会長挨拶、卓話と続き、卓話では綿花や糸紬の機材、そして小倉織の製品が並べられ、大和恵子豊前小倉織研究会代表が小倉織の作り方、なぜ全国に広まっていったのかを説明、研究会会員も綿花から糸を紡ぎだす方法など実演してくれて、非常にわかりやすかった。

そのあと、ありがとうBOXを基金として若松児童ホーム、母子寡婦福祉会に三役で賛助金を届けたことを報告、同好会活動も次々と活動報告やイベント参加呼びかけがなされ、次第に活発になっていることがうかがえた。ショートスピーチは洞会員が自分の人生を紹介、アルバムに貼られた“ミス農村京都郡代表”に推薦されて「福岡県ミス農村第3位」に選ばれた若いころの写真も紹介した。(安高)

例会委員会

11月1日 13名出席

湖月堂にて17時30分から開催。議題は11月と12月の卓話講師と内容についての確認を行った。また、2月から3月にかけての卓話内容の選定と候補者選びを行い予定をたてた。

今回の主な協議内容である新年会については、司会者と補助担当者を決め、イベント内容も多くの意見が出たが大筋を決定した。細部の具体的なことは、12月の委員会で協議することとした。他にはショートスピーチ、受付要員の確認などを行った。(大石)

交流委員会

10月11日 14名出席

17時30分から小倉北区「八くら」にはほぼ全員集合、改めて委員会骨子を確認。会員親睦も大事ですが、目標は楽しいイベントを通じて、会員増強に導くこと。それには、各人の活発な討議を大歓迎。互いにリスペクトし、寛容の気持ちで接して欲しいとの要望を重ねて伝えた。会議は委員が交流行事等の要望、希望を提案し、その意見を参考に協議を進めていきます。多方面にわたり様々な意見が出され、自由な発言ができる雰囲気生まれたようです。出席が楽しくなるような委員会を目指します。

第1回行事は「長府探訪」を11月29日に実施したいと考えています。皆さん奮ってご参加下さい

広報委員会

11月4日 8名出席

12時30分からテトラホテル北九州で開催。先ず、会報「Link23号」が11月の例会日に発行出来ること、その経過や会員へ2冊づつ配布すること等を報告した。続いて「つながり12月号」の編集会議を行い、内容や原稿担当者の確認を行った。

終わりに、月報「つながり」や会報「Link」の編集規定作成について意見交換を行い、活発な議論が行われた。その結果、編集規定を作成せずに懸案事項に関しては、その都度委員会において検討することとして会議を終えた。(内藤)

全国協議会報告 「神奈川県内プロバスクラブの親睦交流会」に出席

9月28日、鎌倉市七里ガ浜の鎌倉プリンスホテルで親睦交流会が開かれ、全日本プロバス協議会の古賀靖子会長と幹事長の松本が出席した。

毎年開催予定の同交流会だが、コロナ禍のため約3年ぶりの開催となった。神奈川県内6クラブに、東京からの2クラブなどを合わせ約60名が参加。参加クラブの紹介の後、来賓を代表して古賀靖子会長が挨拶をした。

第2部では、秋晴れを映した七里ガ浜の海を臨みながら、莊村清志によるギター演奏を堪能。第3部では食事をしながらの懇親会に移り、近況を報告して親睦を深めるだけでなく、会員の高齢化、新入会員確保対策など真剣に意見交換をしていた。(松本)



10月の誕生！

おめでとうございます(敬称略)

吉田 信雄(11日)

住吉 育代(14日)

洞 ミヨ子(24日)



「絵本を読もう?」

伊熊克美 会員

賢い人は身近にいる。子どもである。ことわざにも「負うた子に教えられて浅瀬を渡る」とある。そんな子どもの賢さの秘密は絵本の中にある。それは「たましい」や「いのち」と呼ばれるものの力にあふれており、「見えないつながり」や「ふしぎなもの」が描かれているからである。

大人になると金目のモノや目に見えることしか信じられなくなる。しかし、それは仕方がないことかもしれない。お年寄りと子どもは仲がいい。そのわけは両者とも「あの世に近いから」である。子どもはあちらから来て間がない。お年寄りはもうすぐあちらへ旅立つからである。だから両者は「ふしぎをふしぎとそのまま認める勇気」を持つ。子どもは侮れない。

人権や自由や平等の世界観を持っている。確かな知恵をもっているのです。子ども国会や国連を開催して、絵本を基に質疑する方が幸せな日本いや地球になるのでは?



日本の儀礼文化どうなる

No.68 古賀えみ子会員

冠婚葬祭は人生の通過儀礼を意味する4文字です。「元服・婚・葬儀・先祖の祭礼」祝いと弔いの総称であり、人と人の付き合いに欠かせない儀礼文化として伝承されてきました。仲間外れと称される「村八分」は、集落の罪の制裁として家と村との交際を絶つが十分の内、二分の付き合いとは「火事」の時延焼から村を守る、「葬儀」は死者の祟りを恐れ、弔うことで村を守る最低の地域コミュニティでした。今日では葬儀は自ら地域との交際を絶つ、家族葬が主流になってきました。まさに日本の儀礼文化の崩壊です。時代と共に核家族が広がり、地域との付き合いの大切さを伝える長老がいない、居ても時代に流され、自らも希薄になっているのが現状です。日本人の歴史文化を重んじる精神は消えて行くのでしょうか、残念でなりません。お宮の境内で七五三のお子様に出会いました。可愛い姿に自分ことのように嬉しく「おめでとう」と声をかけると、「ありがとうございます」とお返事が返ってきました。

🍷 ワインを楽しむ会

134回目、10月の定例会を23日18時から、大手町イタリアンレストラン「リップ」で開催した。参加者は12名。今回も講師はリモート接続で、ボルドーワイン白、赤、赤3種の話であった。今回は復習の意味でペーパー配布によって、ボルドー地方の3つの河の右岸(粘土質)と左岸(砂利土質)の土壌の違い、土壌の違いがカベルネ・ソーヴィニヨンとメルローの生育に適したものとなる、格付け、それぞれの地区のワインの特徴等のお話であった。

何時ものことではあるが
皆高級ワインの美酒でほろ
酔い状態、話に花が咲いた
(古賀靖子)



写友会



10
月
例
会
展
示

📖 歴史文学講座

10月25日、12名出席で松本清張記念館において開催。この日は、約50年前に清張が著した「古代史疑」を土台に、「魏志倭人伝に書かれた邪馬台国への距離の数字は虚妄」「一大率は邪馬台国の役人ではなく帯方郡からの派遣官」等、清張独自の見解を紹介しながら、弥生時代末期の日本の姿を浮かび上がらせた。同館学芸担当主任の中川講師の話は分かりやすく、皆な熱心に聞き入った、いよいよ佳境へ。会員以外の方の参加もどうぞ。(松本)



人生いろいろ

No.66 洞ミヨ子

私の家族は祖父、両親、姉 2 人、兄と私の 7 人でした。以前から農家で、農作業の中心はおじちゃんでした。力持ちで相撲が強くて大変有名でした。そのおじいちゃんが亡くなった後、田んぼだけで 2 丁 8 反あったのを半分程に減反し、農作業も減らして対応、農協の協力や近所の方々の応援もあって、農繁期等を乗り切っていたようです。



学校は豊津中学から豊津高校へ、3 年間は普通科の勉強と洋裁、和裁、手芸に取り組み、休日には農作業や家事の手伝いと、この頃が一番苦しかったと記憶しています。

卒業後の 21 歳の頃、農協から「ミス農村」の京都郡代表に推薦され、「福岡県ミス農村 3 位」にまで選ばれました。その後、縁談は農家ばかりで困りました。そんな中で親戚の叔母の話にのり、若松の洋服屋の長男と結婚いたしました。その後、主人は調子に乗って全国に支店を展開して、過剰投資等で倒産し、後処理が大変でした。今は長男が焼き鳥屋「黒船」を経営し、娘夫婦も共に働き頑張っています。私は今 87 歳、本当に人生はいろいろでしたと話されました。

話初めは声が小さかったのですが、終わりになるに従い声が大きくなり、ミス農村を笑いながら大きな声で話されたのが印象的でした。(眞鍋)

川柳を楽しむ会



7 月 16 日のラインで、会員へのお題「温泉」と送信しました。来るわ来るわ数々の名川柳が。「温泉地浴衣姿の美女ながめ」吉田信雄会員「ホテル舞う混浴露天にひとりきり」安高会員。昭和の風情溢れるノスタルジックな川柳でしょう。会員の中から温泉に行きたいとの声があがり、早速旅行を企画しました。参加者 11 名で、目的地は九州一の名湯別府温泉です。9 月 30 日から 1 泊 2 日で、宿泊は老舗白菊ホテル、到着早々の別府湾を望むウェルカムドリンクでのお迎えは感動的でした。宴会は懐かしい宴会芸も飛び出し、終始和やかに過ごしました。神田会員の「湯上りのスッピンに顔に目がくらみ」は女性にとって気になる川柳ですね。

(古賀えみ子)

ありがとう BOX メッセージ 10 月分 (五十音順、敬称略)

★全てに感謝です。(遠藤)★皆さんお元気で素晴らしい。(大石)★小倉織勉強になりました。(古賀え)★暑さが終われば寒さです。しっかり防寒し、コロナ対策と共にやりましょう。(古賀靖)★健康に日々感謝しています。(近藤哲、弘)★やっと涼しくなり楽しいこといっぱいありますように。(柴村)★誕生日を祝っていただきありがとう。(住吉)★いろいろあっても秋日燦々！感謝です。(内藤)★健康第一(中山)★87の誕生日がもうすぐですが何とか生きてます。(洞)★感謝(松永)★(松本)★(眞鍋)★(安高)★食欲の秋。スポーツの秋。川柳の秋です。(吉田信)★日々無事にと願う私。周囲の方々は優しい。(?)

収支報告	9 月末残高	164,566 円
	寄付 3 件分	－100,000 円
	10 月分収入(例会)	9,700 円
	10 月末残高	74,266 円